



地域を基盤とした福祉教育事例

— 福祉教育推進事業実践報告 —



社会福祉法人 宮崎県社会福祉協議会
宮崎県ボランティアセンター

平成 31 年 3 月

はじめに

今日、生活困窮や孤立化、虐待問題など地域住民が直面する様々な生活課題が見られる中、地域のつながりをはじめ、公的な支援を行う関係機関や事業所、さらにNPO・ボランティアなどが連携・協働する体制を構築し、生活課題に対して一体となって取り組む等、地域福祉の推進が求められています。

地域福祉やボランティア活動を推進する中で、福祉教育には、子どもの健全な育成を図るという目的に加えて、地域社会形成の主体である住民一人ひとりが自分たちの地域がどのような課題を抱えているかを学び、それらの課題に対応するための解決策を計画し、それを実行するための機会を得るという重要な役割があります。

また福祉教育は、地域の中で高齢者、障がい者、児童など全ての人がかげがえのない存在として尊ばれ、多様性を認め合いながら「共に生きる社会」をつくっていくことが最終の目的であり、そのための「福祉観」を育むという視点を持って進めていくことが重要です。

このため本会では、「県民一人ひとりが安心して暮らせるまちづくり」を実現するために福祉教育にも力を入れており、子どもから大人までの地域住民すべてを対象とした福祉教育推進事業を推進しています。

この取組は、地域をフィールドに地域住民一人ひとりが学びを通して地域の生活課題等に気づき、その解決に向けて地域福祉・ボランティア活動へつなげていくことを目指しています。つまり、地域の生活課題を一つの教材として、学ぶプロセスを通して住民一人ひとりが市民活動の担い手であることを自覚するとともに、地域の福祉力や教育力等を向上させるものです。

このたび、本会で平成29年度から平成30年度までモデル事業として実施した実践事例を「地域を基盤とした福祉教育事例～福祉教育推進事業実践報告～」としてまとめました。今後、学校や社協、地域での福祉教育推進の参考にしていただければ幸いです。

平成31年3月

社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
会長 佐藤 勇夫

目 次

1	知ってほしい「福祉」のこと、「福祉教育」のこと。	1
2	椎葉村における福祉教育の実践	3
	Chapter 1 椎葉村 x つながる	5
	Chapter 2 椎葉村 x つたえる	9
	Chapter 3 椎葉村 x つむぐ	13
3	県社協からのコメントとYELL	18

知ってほしい「福祉」のこと、「福祉教育」のこと。

お尋ねします。

Q1 「福祉」ってどんなことだと思いますか？

Q2 「福祉教育」と聞いてどんなことを連想しますか？

学校で、子どもさん達に尋ねた時、逆に子どもさん達から尋ねられた時、多くの方はこう答えるのではないのでしょうか？

A1 「高齢者や障がいのある人、何か困っている人を助けること」

A2 「車椅子」や「アイマスク」体験、施設に行ってお手伝いをする。

どちらも間違っはけません。むしろ大事なことです。

しかし、私たちがお伝えしたい「福祉」や「福祉教育」には、もっともっと広い意味が込められています。

私たちはこう答えます。

A1 福祉（ふくし）は、**ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ

福祉は、困った人のための特別なものではなく、自分たちにとっても大切なもの。

毎日の暮らしの中で、いろんな人と関わりながら、助けたり、助けられたり。

自分たちの暮らしている地域が、誰にとっても住みやすい地域になるように、みんなで考えていく。そのことこそが「福祉」なのです。

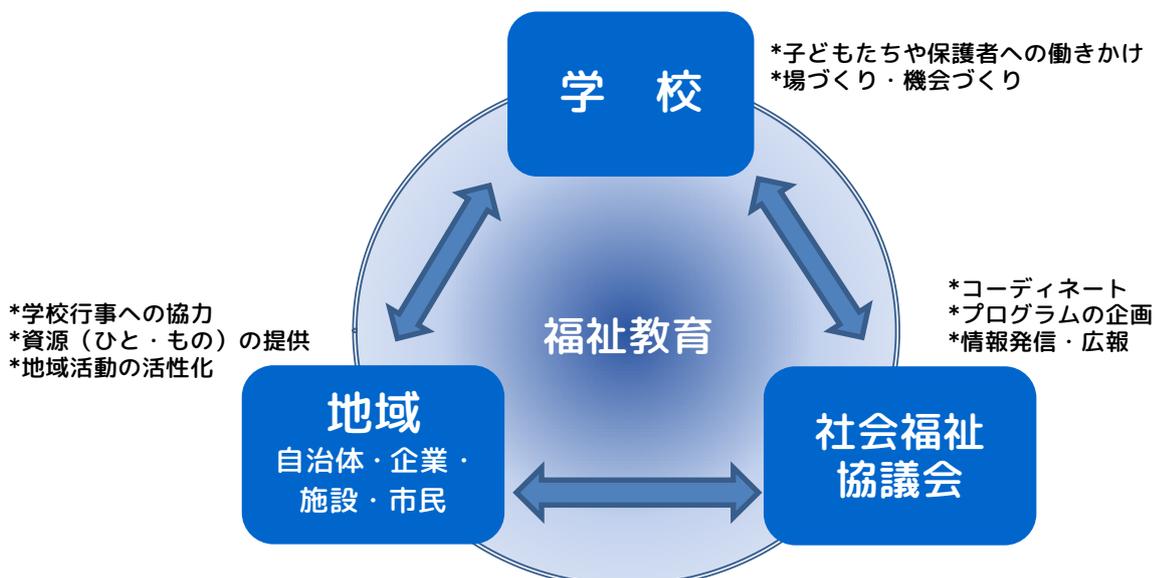
A2 「他人事 = **ひとごと**」を「自分事 = **わがごと**」に変える福祉教育

自分たちの暮らしている地域が、誰にとっても住みやすい地域になるように。

子ども、高齢者、障がい者、全ての人々がそれぞれ役割を持ち、支えあいながら、助け合いながら暮らせる地域—それは、他人が作ってくれるわけではなく、自分たちで作りに上げていく必要があります。

そのことを、子どものころから意識し、将来一人の「地域人」となっていくための土台作りをすることが「福祉教育」だと考えます。

ですので、私たちの考える「福祉教育」には、地域の皆さんの力が必要なのです。



私たちが考える「福祉教育」が「地域づくり」に繋がっていることをイメージして、今回取組まれた「福祉教育推進事業」を読んでみてください。

椎葉村における福祉教育の実践

「かてーり※の里 椎葉村」
＝つながる・つたえる・つむいでく＝



椎葉村の概要 (平成30年4月1日現在)

<面積> 537.3 km² 宮崎県の町村で一番広い面積
<人口> 男 1,402人 女 1,406人 計 2,808人
<生活保護世帯数> 25世帯(27人)

椎葉村の子どもの概要 (平成30年4月1日現在)

<母子世帯数> 254世帯 <父子世帯数> 5世帯

椎葉村の高齢者の概要 (平成30年4月1日現在)

65歳以上の高齢者数	1,198人	高齢化率	42.6%
うち 70歳以上	379人	80歳以上	438人
90歳以上	112人	100歳以上	2人

独居高齢者数 221人

高鍋町の障がい者の概要 (平成30年4月31日現在)

<手帳保有の状況>

身体障がい者手帳 222人 知的障がい者手帳 47人 精神障がい者手帳 19人

<障害福祉サービス等の受給状況>

重度障害者医療助成受給者 115人 障害福祉サービス受給者 49人(件)

※「かてーり」

椎葉村に古くから伝わる“相互扶助”の精神のこと。全国的には結(ゆい)と言われる。
厳しい自然環境の中で、一家や地域の枠を超えて協力しあうこの精神は、現在でも村のスローガンとして掲げられている。

Chapter 1

椎葉村

×

つながる

= Link =

椎葉村×つながる

福祉教育検討連携会議の設置

◆ 目的

地域・学校での福祉教育推進のため、これまで社協だけで検討してきた「福祉教育事業」の内容を、関係機関と意見交換等を行いながら検討し、福祉教育の推進を図る。

POINT ① 会議をとおして、メンバーの皆さんに「福祉教育の大事さ」を再確認していただく。

POINT ② 今後、この会議をとおして、住民の皆さんと関係機関、社会福祉協議会が協力しあい、椎葉村で「共に支えあい生きていく地域」を維持していくための心を育てる種をまき、支えあう心が育ち実を結ぶことを目指す。

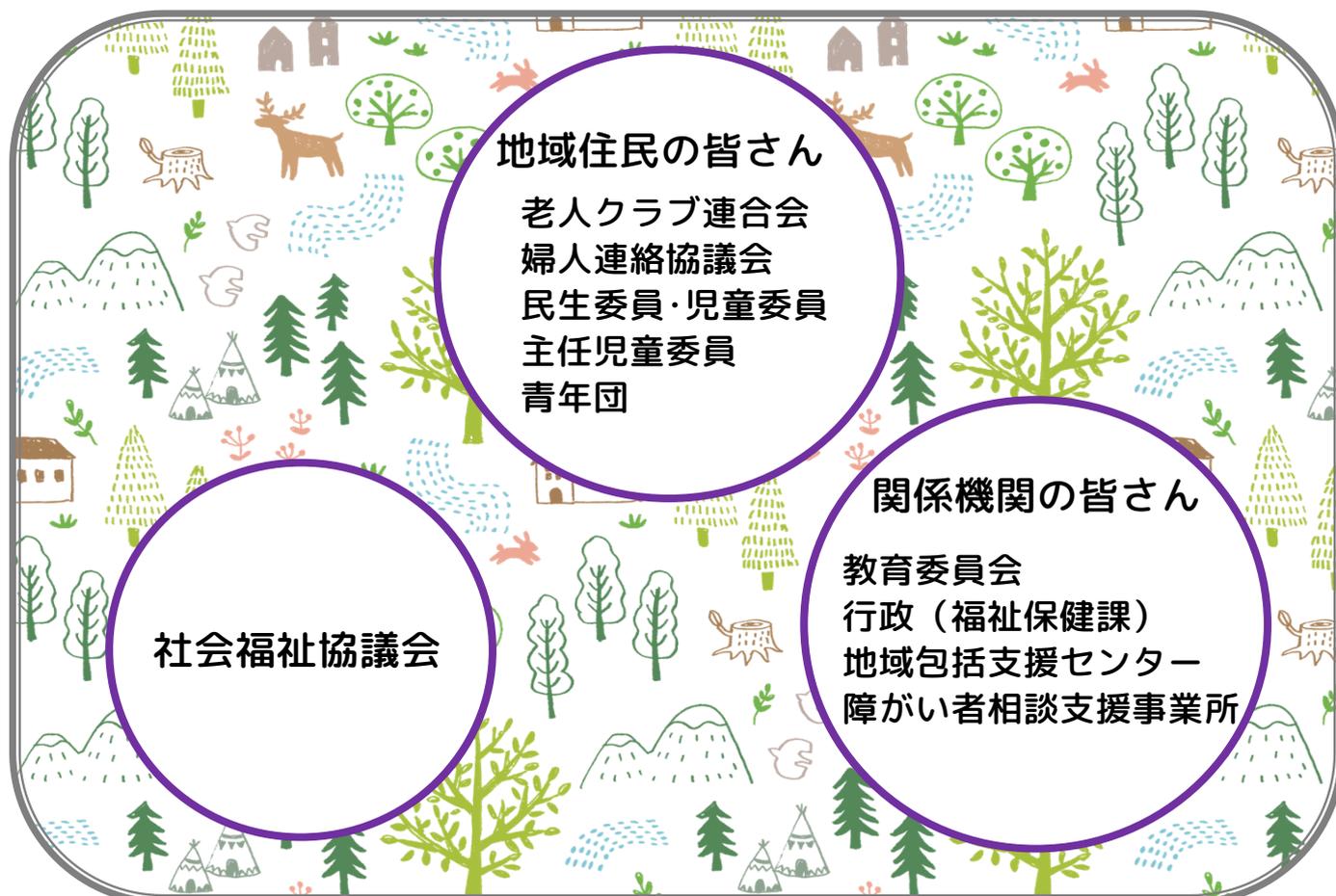
◆ 活動内容

年2回会議を開催。福祉教育事業の内容について御意見をいただき内容を深めた。

平成29年度、第1回の連携会議では、「福祉教育とは？」を理解していただくため、西都・児湯地区を中心に児童発達支援センター「はぐはぐこども村」や放課後等デイサービス事業を展開している、特定非営利活動法人ふぁむ・ふぁーむの渡邊ゆき子代表の講演会を実施。

また、椎葉村社協から、これからの椎葉村での福祉教育を、どのように進めていきたいか説明を行い、それぞれの立場で福祉教育が考えていける土台作りを行った。

◆ 構成メンバー



椎葉村×つながる

◆ かてーりVOICE



メンバー	会議に参加して	ご自身の変化 や 今後への期待
老人クラブ連合会 会長	この事業の狙いや会議の目的は理解しており、それに沿って狙い通りの動きを組み立てて実行してきました。椎葉村社協も良い変化があったと思います。	連携会議に参加できたことで、自分の地域での役割を改めて確認しました。福祉教育を広め、地域を盛り上げる役目を頑張っていきたいと思っています。
主任児童委員	学校教育現場においては、単発な体験事業だけに終わらず、学習内容を実践できるよう継続的な取組みが見られるようになりました。 また、初年度は障がいについての理解啓発、次年度は認知症など、偏りのない研修会が開催できていると思います。また福祉座談会などの機会をとらえて、地域における福祉教育推進を図っていこうという意欲が、社協側に感じられるようになりました。 福祉教育研修会は、地域福祉につながる大きなイベントとしてとらえ、各団体の集会に出向いて働きかけを行ったり、関係機関の後援をもらうなど、積極的なアプローチが実行できるようになったと思います。	私自身、大きな変化は無いとは思っていますが、最初は「なぜ、今更福祉教育・・・」なんて思っていました。しかし、初年度の福祉教育研修会をはじめ、各研修会に参加する毎に、最近の地域課題の多様化を学び納得していきました。 連携会議の一員として、学校と地域、家庭の連携に努力し、「ナナメの関係づくり」に努めていきたいと思っています。
教育委員会 学校教育グループ	会議に出席させていただき、乳幼児から大人まで福祉に関わる中で、児童・生徒ボランティア体験事業や福祉教育研修会など、住民全体の地域福祉につながる取組みがなされ、活性化しているように感じました。	福祉教育の重要性に気付いたと感じます。 福祉は椎葉村の皆さんが生涯にわたって、より幸せに生きていくために大切な分野だと考えております。活動の充実を図るためには、行事の精選を進めることが大切になります。 これまで土日の学校行事（参観日や部活の練習・大会等）が全ての月で計画されてきましたが、昨今の教職員の働き方改革により、部活動等も土日のいずれかを休養日にするなど、対策が進められています。 本事業で土曜日に計画され好評であった福祉教育研修会等、家族で参加しやすい形が整えば、椎葉村の福祉教育はより主体的になるのではと期待しています。
地域包括支援センター 副センター長	1年目より2年目へと発展していると感じています。連携会議の意見をしっかりと受け止め、地域の実情に応じた組み立てができていると思います。	教育という観点で社会の中にある矛盾をどう解釈してあげるのかが課題だと思います。社会の変化の中で福祉の概念も変化するでしょう。「分かっている！」ではなく、常に学び、考えていく姿勢が必要だと感じています。

◆ 社協・情熱所感

関係機関の意見を参考にすることにより、**社協だけが考える福祉教育ではなく、様々な視点で福祉教育の事業を検討することができ、事業の内容が深みを増し、実践につながることができました。**

会議を重ねるごとにメンバーの皆さんの意見が活性化し、事業実施後も一つ一つ振り返りを行い次の事業に反映できたことで、それぞれが自分の立場でできる福祉教育を考えるなどモチベーションの高まりを感じました。これからも皆さんとともに福祉教育を考えていきたいと思っています。

Chapter 2

椎葉村

×

つたえる

= Import =

椎葉村×つたえる

児童・生徒ボランティア体験・交流活動応援事業

◆ 目的

学校毎に福祉教育やボランティア活動体験を計画・実施するにあたり、情報提供や活動支援を通して福祉教育の推進を図り、学校との連携を深める。

◆ 活動内容

各学校が行う福祉教育、ボランティア教育に助成金を支出し活動を支援する。また、内容に応じて情報提供や用具貸出しを行う。

美化活動 花植え、清掃活動

交流活動 餅つき大会、世代間交流、学習発表会、年賀状送付、運動会、ふれあい参観日

体験活動 焼畑体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、車椅子体験、田植え、稲刈り

福祉活動 募金活動、養護老人ホーム訪問

◆ かてーりVOICE

平家祭り開催にあたり、学校周辺の清掃をとおして、郷土の祭りに貢献しようとする気持ちを高めるとともに、地域の一員としての奉仕の精神を培った。

世代間交流で、駒遊びや竹馬、おはじき等の伝統的な遊びやグランドゴルフの活動をとおして交流を行った。児童は高齢者の方々の温かさに触れ、尊敬と感謝の気持ちを持つことができたようだ。

特別養護老人ホームを訪問し、高齢者の方々との交流をとおして、奉仕的精神を養い望ましい人間関係の醸成を図れた。

自分達で種から育てた花々を校内に飾ったり、学校園で収穫したサツマイモを産業文化祭で配布したりしてきた。また、秋には学校のシンボルになっている銀杏の落ち葉の清掃を兼ねて、運動場に地上絵を描き地区民を楽しませていた。

不土野地区全体での交流活動としては、運動会や学習発表会はもとより、ふれあい参観日の中で地区の高齢者とレクリエーションやニュースポーツを楽しんだり、尾八重老人会の方と一緒に竹ぼうきを作ったり、給食と一緒に食べたりして交流を深めた。

このような取組みによって、子ども達が地域に貢献することの意義と喜びを実感できるよう指導を行った。

◆ 社協・情熱所感

子ども達は、学校でのボランティア活動や世代間交流、特別養護老人ホームの訪問をとおして、多くの人と触れ合うことで優しさや温かさを感じることができているようです。家族以外の人からの優しさは、いずれ大人になる彼らが社会に出た時に、周りの人を助ける気持ちを持つきっかけになると期待しています。

ただ、学校にはカリキュラムがあり、学校行事だけでなく地域交流行事も行われ、社協による「福祉教育」推進の時間をとるのは無理があるように感じました。そこで、学校が行うボランティア体験・交流事業で不足する部分の支援を社協が行い、『協働』で実施することを提案。「福祉出前講座」として実施できることを、年度当初の教頭会・校長会で説明を行いました。

福祉出前講座

◆ 目的

さまざまな立場の方々が活動の担い手となり地域を支えていくために、支援が必要な方を理解し、ともに生きることを学ぶ福祉教育の推進を図る。

◆ 活動内容

車椅子体験やアイマスク体験等を単発で行うのではなく、体験後の振り返りと学びを加えることで今後の活動につなげていく。また、認知症サポーター養成講座を行い、寸劇やコメントリレーなども取り入れ、子ども達が積極的に主体的に取り組めるよう工夫を行う。



車椅子体験
アイマスク体験



椎葉村の福祉活動
について調べよう！



体験後の当事者講話



認知症サポーター
養成講座



◆ かてーりVOICE

認知症の方と関わったことのない人にも、とてもわかりやすく説明してくださった。寸劇では、実際の様子を再現し楽しく、でもリアルに学ばせていただくことができた。

講話を真剣に聞く子ども達と真剣に話してくれる当事者さん、そのやりとりを見ながら双方の思いやりを感じた。子ども達は、障がいの特別視ではなく、当事者さんの人間力に関心を持った反応だったと思う。

本やインターネットで調べるだけでなく、体験によって様々な配慮が必要なのに気づき、子ども達にはより福祉のことが印象に残ったと感じた。社協をはじめ様々な取組みが行われていることを知ることができた。

「ふだんのくらしのしあわせ」を小学生でも言えるようになったこと、とても大きな収穫だった。認知症対応の手前の「ふくし」からしっかり伝えることができ良かった。家庭教育学級も一緒だったので、より家庭の理解につながったと思う。

福祉体験は、子ども達が障がいのある方の大変さを実感することができ、とても良かった。子ども達が困っている人に声をかけたいという意識を持つきっかけとすることができた。また、体験だけで終わると「障がいのある方は大変だ。」という感想だけで終わってしまうが、当事者のお話を聞かせいただくことで、思いが伝わり、それにより自分たちに何ができるのかというところへ児童の考えを広げていくことができた。

椎葉村×つたえる

◆ かてーりVOICE PREMIUM



椎葉村立松尾小学校 教頭先生

「おじいちゃん、おばあちゃん、にんちしょうになっても、みんながいるからだいじょうぶ！」

「私がいるからだいじょうぶだよ。いっしょにわらおう。」
「もし認知症になっても大丈夫！となりで助けてあげるから。」

これらは、「認知症サポーター養成講座」を受講した児童が、講座の最後に画用紙に書いたコメントです。

これらのコメントから分かるように、今回講座を受講することによって、認知症に対する理解が深まり、認知症の人を支えていこうという気持ちを育むことができました。

今回の講座では、まず「認知症の正しい理解」、「高齢者の特徴・困りごと」という講話があり、その後「支えあい模擬体験」や「脳トレーニング」、「タクティールケア」など、体験型の学習に取組みました。寸劇なども取り入れられ、小学生にも分かりやすい内容で、楽しく学習することができました。

本校では、毎年11月に児童の祖父母を学校に招き敬老交流学習を実施しています。今年度は、県技能士協会の御協力と一緒に木工塗装に取組んだのですが、この敬老交流学習を「認知症サポーター養成講座」での学習を活かす活動としてとらえ、休憩時間に「タクティールケア」（背中を軽くなでるマッサージ）の時間を取りました。

はじめは、恥ずかしそうにしていたのですが、ケアを受けたおじいちゃん、おばあちゃんが嬉しそうにする様子を見て、「喜んでもらえて良かった」という気持ちになったようです。

講座を受けた後に、学習したことを実際に活かすことができ、認知症について学習するだけにとどまらず、今後の実践につなげることができたと思っています。

本当にありがとうございました。

椎葉村立椎葉小学校 校長先生

実際に自分の目で見たり、体験したり、直接的な話を聞かせていただいたりすることは、児童の心にも大きく残る活動となります。多くの直接的な体験をとおし、児童に福祉を考えさせることで、今後の行動力に結びつけることができると考えています。

施設や道具について知るといことが、小学校での学びの中心ですが、それで終わることなく、それぞれに関わる人の思いに直接ふれていくことが、子どものこれからの行動力を育てていくうえで何より大切です。

そのためにも、障がいのある方や高齢者の皆さんはもちろん、その方々を支えている、その周りの方々とお話することも、とても大切な機会と考えています。

次年度は、より幅を広げて活動計画を工夫していきたいと考えます。しかし、学校職員だけではそのような企画を準備するのはなかなか難しいところがあります。

そういう点において、地域の皆さんとのコーディネートをしていただいている社協の皆さんには本当に感謝しています。

これからも是非御協力をお願いします。



◆ 社協・情熱所感

「福祉出前講座」を実施するにあたっては、単発で行うのではなく、体験した後の振り返りや当事者の方の講話を聞くことなどをあわせて行い、学びの実践を次の活動に活かすことを心掛けました。その成果をもって、学校のカリキュラムに組み込んでもらえるよう丁寧に説明を行いました。また、学校側から依頼があった際には、担当教諭の意見をまず聞き、その内容に組み合わせて支援できるものを提案させていただいて、より福祉教育の目的を達成できる内容にしました。

結果、「福祉出前講座」を取り入れてくださる学校が1校増え、既に実施してくださっている学校でも、時間数を増やし、対象学年も増やしてくださいました。

今まで「点」で行ってきた事業は、学校と社協で「協働」することにより、「点」から「線」へ、さらに地域へと広がってきたのではないかと実感しています。

Chapter 3

椎葉村

×

つむぐ

= Spin =

椎葉村×つむぐ

H29福祉教育研修会（様々な障がいへの理解）

◆ 目的

映画「みんなの学校」の上映と講演会等の開催をとおり、地域全体に障がいへの理解を促進することや、共に支えあい生きていく共生社会の実現に向けて考える機会を提供する。

【テーマ】 「伝えあい・支えあう」

～この村で共に支えあい生きていく、笑顔あふれる村づくりを目指して～

◆ 活動内容

平成29年10月28日（土） ～椎葉村開発センター～



時間	1階 ホール・講堂	2階 農技室・各会場
10:00～12:00	上映会「みんなの学校」	(10:00～15:00) ◆パネル展示 ◆DVD上映コーナー ◆人権について資料展示
13:00～14:30	講演会「共に支えあい 生きていくために」 社会活動家 法政大学現代福祉学部教授 湯浅 誠 氏	◇休憩所 ◇軽食販売コーナー ◇物産販売コーナー
15:00～17:00	上映会「みんなの学校」	

不登校ゼロを目指す大阪市の小学校が、特別支援の対象となる児童も同じ教室で学ぶことで、教職員、保護者、地域の大人たちだけでなく、子ども同士も一緒になり「みんながつくる、みんなの学校」に取り組むドキュメンタリー。（2014年制作）

◆ かてーりVOICE

映画、とても感動しました。現場ではかなりのエネルギーが必要だと思いますが、こんな学校があることを知るだけでも今後につながっていくかもしれません。心のバリアフリー、とても難しいですね。障がいにもいろいろあることを知りました。多くの人に見てもらいたい映画でした。

大変面白くお話を聞かせていただきました。障がいの有無に関係なく、人が人としてどう生きるのか、成長するのか。人としての根本の幅を広げることの重要性や楽しさを改めて感じました。

「みんなの学校」感激で涙しながら見ました。教育の現場では全ての子どもに居場所がある、そんな学校を作りたいと心から思います。

学校が変われば地域が変わる、そして社会が変わっていくこと、ひしひしと感じました。障がいがある子どもと一緒に学ぶ姿勢に、今日はこの機会に恵まれて良かったと思いました。この企画をしてくださった方々に心から感謝します。

◆ 社協・情熱所感

地域で見守ること、地域で認め合うこと、その大切さを改めて学びました。「認めあう」ことを実行することは難しいことですが、多世代に福祉教育の根をじわじわ張らせていきたいと思いました。

参加してくれた中学生が「学校の先生が来ていないことが残念。DVDがあるなら学校でみんなに見てもらいたい」と話してくれ、このような思いが今後の椎葉村での地域共生社会の実現につながると感じ、この糸を次につないでいかなければと強く思いました。

H30福祉教育研修会（認知症への理解）

◆ 目的

認知症に関する映画上映、パネル展示や認知症の方に優しい図書コーナー、高齢者疑似体験等とおし、認知症や介護に関する理解を深め、介護を必要とする方を地域全体で支えあう体制づくりを促進する機会を提供する。

【テーマ】 「あなたも、私も、笑顔あふれる椎葉村」～あなたの思いをかたちにしませんか～

◆ 活動内容

平成30年9月1日（土） ～椎葉村開発センター～



時間	1階 ホール・講堂	2階 農技室・各会場
9:00～10:20	上映会「徘徊 ママリン87歳の夏」	(9:00～15:00)
10:20～11:00	思いをつなぐコメントリレー 「皆の思いをかたちに！！」	◆認知症の人（家族）に優しい図書コーナー
11:00～12:00	講演「いつまでも元気でいきいき輝けるために」 特別養護老人ホーム 平寿園 作業療法士 前田 克彦 氏	◆高齢者疑似体験 ◆認知症パネル展示 ◆クイズで進んで商品ゲット
13:00～14:20	上映会「徘徊 ママリン87歳の夏」	◆人権について資料展示
14:20～15:00	思いをつなぐコメントリレー 「皆の思いをかたちに！！」	◇休憩所 ◇託児所 ◇軽食販売コーナー

大阪・北浜。都会の真ん中に暮らす認知症の母（ママリン）とおひとりさまの娘のひと夏をおったドキュメンタリー。ママリンのすさまじい徘徊と、想定を超えた行動に振り回される娘と、二人を見守るご近所さんの日常を描く。（2015年制作）

◆ かてーりVOICE

みんながいつかは通る道、やさしい笑顔で言葉にできること、素晴らしいかったです。
徘徊を理解し、付き添うことが大事、言葉かけが良かった。

親子の掛け合いに笑う場面が多く、都会でも近所の見守り、対応が上手くなされていて、温かい気持ちになりました。老いても楽しく過ごせるエッセンスが詰まった作品でした。

映画と思いをつなぐコメントリレーに感激しました。スタッフの皆様の取組みに頭が下がります。社協すごい！
昨年が子どもの発達障がい、今年は認知症、素敵な研修会でした。

福祉についてたくさんの方々の努力、つながりがあることを感じました。
そのそばで、少しでも支え合う努力することに意義があると考えました。

◆ 社協・情熱所感

認知症への関心の高さに驚きました。椎葉村も地域で高齢者を見守れるようになっていけたら…。今こそ「かてーり（相互扶助）」の強みを最大限に活かす時だと思っています。

今年の研修会では、認知症の支援に携わる方々からいただいた「コメント」をリレー形式の動画にして上映。ひとりひとりの思いが紡がれ、会場全体に優しさの花が咲いたようでした。そしてこのコメントリレーは、地域の座談会へと更に広がりを見せていきます。

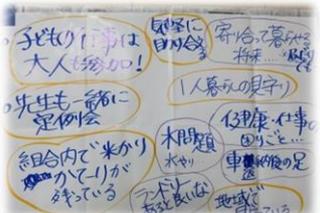
椎葉村×つむぐ

地域福祉座談会

◆ 目的

人口減少や少子高齢社会の進行、一人暮らし世帯の増加等、椎葉村を取り巻く環境は変化しており、これらの福祉ニーズの多様化によって従来の公的サービスだけでは対応できない生活課題が発生している。そうした地域の抱える課題を解決し、子どもから高齢者まで全ての住民が支えあいながら安心して暮らすことのできる村づくり、地域づくりをめざす。(10公民館)

◆ 活動内容

平成29年度	平成30年度
「この村で、共に支えあい暮らしていくために」	「優しさをカタチにしていること ～100年先に伝えたいこと～」
<p>住民の皆さんに、「地域の支えあい自慢」を出してもらい、今、行っている支えあいの価値に気付いてもらう。</p> 	<p>優しさを伝える接し方のポイントをお話し、今年度1年間をとおしていただいた「コメントリレー」を見てもらう。</p> 

◆ かてーりVOICE

* 今回の座談会は公民館で行ったが、今後は集落単位で行うと、もっと掘り下げた話も出来ると思う。自分もサロンに顔を出し、どんなものなのか体感したい。社協は高齢者や障がい者と近いもので、我々(青壮年)とは遠いと思っていたが、座談会を通じて近い存在になった。

* 支えあいやつながりの強いこの地区が大好き。今回、たくさんの支えあいを聞くことができてとても良かった。

H29 館長の声より



* 自分の母が認知症になったとき、近くで見ていたのに気付いてあげられなかったし、認めたくなかった。今回の座談会の知識をもっと早く知っていれば…と悔やまれた。これからのためにも学習の機会を広げていきたい。

* 年々、社協さんも趣向を凝らしてくるので楽しさ。今年のコメントリレーには驚いた。支えてくれる人たちがこんなにいてくれる。我々の支えあいのカタチがここにある。

H30 館長の声より

◆ 社協・情熱所感

各地区を廻ることで、それぞれの雰囲気を感じられる良い機会になり、他の事業にも活かしていけるのではと手応えを感じました。認知症のテーマも伝わったと思います。今後は更にサロン参加を増やす工夫を行ったり、広報活動や福祉教育に力を入れるなど、地道に活動していくことが大事だと実感しました。

発達障がい研修会

◆ 目的

発達障がいのある子どもが、どんなことに困っているのか、どのようなことに支援を必要としているのかを知り支援につなげていくことを目的に、当事者家族の思いや発達障害教育に関する最新の情報提供、疑似体験等をとおして、発達障がいへの理解促進を図る。

◆ 活動内容

平成30年8月1日(水)〔学校関係者対象〕、8月4日(土)〔保育関係者対象〕

講義 ① (8/1,4)	「発達障がいのある子どもへの適切な支援とは～疑似体験をとおして～」 宮崎県立児湯るぴなす支援学校 特別支援教育チーフコーディネーター 海老原 ゆき子 氏
講義 ② (8/1)	「エリアサポートについて」 宮崎県立日向ひまわり支援学校 特別支援教育コーディネーター 甲斐 順二 氏
講義 ② (8/4)	「子育て中に関わってくれた皆さんへ 伝えたい親の思い」 宮崎県自閉症協会 事務局長 蓑毛 美奈子 氏

◆ かてーりVOICE

学校・教諭

・大人が当たり前のこと、自分にとって当たり前のことが子どもにとっては困難だったり、理解できないのだと実感しました。“児童の視点に立つ”ということ、教師は常に意識していかなければならないと感じました。

・疑似体験することで子ども達への言葉かけや指導、自分の言動を反省できる研修でした。今日学んだことを今後に活かしていきたいです。

保育士

・子どもの目線になり、どんな声かけや伝え方をすればいいのか、とても考えさせられました。自分はまだ気付けていないところがあると反省しました。正解は無いのかもしれませんが、その子を理解し、その子にあった支援を考えられるようになりたいと思いました。

保護者

・実際に、障がいのある方の困り感を知ることができて勉強になりました。また、社会に出て障がいのない方と変わらない生活を送られていると知り驚きました。必要な手立てや工夫にたくさんの愛情を感じ、保護者として是非参考にしたいと思いました。

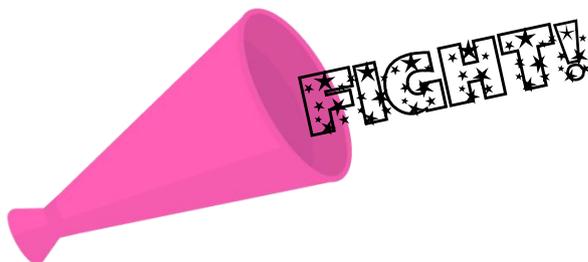


◆ 社協・情熱所感

疑似体験をし、当事者・家族の思いに触れる中で、支援者であること責任を感じることができる研修でした。発達障がいのことが、もっと広く伝わるよう努力すると同時に、**子ども達を支える先生をも支える社協でありたい**と思いました。それぞれが学んだことをしっかりと紡ぎ、学校・家庭・地域のあらゆる場面において、**かてーりの思いを広げていきたい**と強く心に誓いました。

かてーりVOICE 番外編

～県社協からのコメントとYELL～



椎葉村での福祉教育推進事業展開の際に忘れてはいけないこと、それは椎葉村において、今も「かてーり」の精神が脈々と受け継がれているということです。

既に説明済みのとおり、「かてーり」とは相互扶助のことを言い、厳しい自然環境の中で家族や地域の枠を超え協力しあう＝助け合うことを当たり前とし、そのことを村民一人ひとりがとても大切にしています。

つまり、見守り・支え合う仕組みは、既に存在していると言えるのです。

そのような中で、椎葉村社会福祉協議会がモデル指定を受け、福祉教育推進事業を展開しようと考えた「思い」はどこにあったのでしょうか？

① 発達障がいに対する理解促進

椎葉村社会福祉協議会では、平成26年度から発達障がいのある未就学の子どもさんの支援を行っており、西都・児湯地区で児童発達支援センターや放課後デイサービス事業を展開している、特定非営利活動法人ふぁむ・ふぁーむの渡邊代表に度々協力・助言をもらってきました。

その中で懸念されたのが、この子どもさんが小学校へ入学した後、まわりの子ども達を含め、保護者、そして学校・教師が、この子を理解し、この子にあった支援をしていけるか…という点でした。

椎葉村社会福祉協議会では、子どもから大人まで「誰も排除しない」すなわち村内全ての人が支え手側と受け手側に分かれるのではなく、支えあいながら暮らすことのできる社会の実現を目指すとき、「障がい」に対する理解を、もっと深める必要があると考えたのです。

この「思い」は、モデル事業初年度である平成29年度に実施された「福祉教育推進研修会」から、次年度である平成30年度に実施された「発達障がい研修会」へとつながっています。

② 複雑化・多様化する地域生活課題と福祉教育の意義

福祉教育ときくと、車椅子体験やアイマスク体験、高齢者疑似体験等と直結してしまう考えは、椎葉村でも例外ではありませんでした。

福祉教育検討連携会議のメンバーの皆さんも、「何故、今さら福祉教育なの？」という疑問を持たれていたようです。

しかし、人口減少や少子高齢化の進行、一人暮らし世帯の増加等、椎葉村を取り巻く環境も確実に変化してきており、そのような中、椎葉村社会福祉協議会では、福祉教育とは、単なる体験で終わるものではなく、地域をよく知り、体験をとおり自分にできることを考え、行動し、暮らしやすい地域づくりを行うことなのだということを一人でも多くの村民に理解してもらい、改めて「かてーりの里」の強みを発揮できる仕組みづくりを行いたいと考えました。

この「思い」は、テーマを認知症へと変更しながら平成30年度も継続された「福祉教育推進研修会」、そして「福祉出前講座」や「地域福祉座談会」の充実へとつながり、特に「福祉出前講座」においては、学校の意図を酌み取りながらも、協働での事業を展開する足がかりへとつなげています。

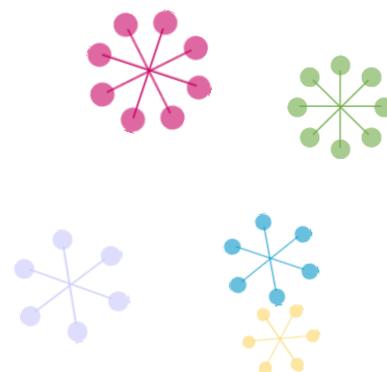
2か年のモデル事業を終えようとしている今、椎葉村社会福祉協議会の担当者は次のように感想をまとめています。

『住民の方々にとって「当たり前」であることが、実は、とてつもなく「素晴らしく、大切に、価値のあるもの」であることに、この2か年をとおして気付いていただき、これからも大切につないでいかなければならない、という意識を高められたような気がします。』

2か年目である平成30年度に、様々な事業展開を通じて行った「コメントリレー」は、一人ひとりのそんな思いをカタチにしたものであり、社協職員もまた、そんな思いが優しさとともに地域に広がっていくことを強く感じることもできるものとなりました。

今回の福祉教育推進事業の展開は、共に支えあいながら安心して暮らすことのできる村づくりを目指して、「福祉教育」を一つのツールとしながら、地域の方々と「つながり」、地域の方々へ思いを「伝え」、そして地域の方々とその思いを「紡いでいく」作業であったと言えます。

椎葉村での取組みはスタートしたばかりです。これからこの「紡ぎ」が固く確かなものになり、更に魅力的な「かてーりの里」となることを心から期待しています。





社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 / 宮崎県ボランティアセンター

〒880-8515 宮崎市原町2-22 宮崎県福祉総合センター本館1階

TEL 0985-25-0539 FAX 0985-31-6575

<Official website> <https://www.bura-vola.org/>

<Facebook> <https://www.facebook.com/miyazakiken.volunteercenter/>